

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所  
 発行責任者 西牧 泰彦  
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会  
 南会津郡小中学校長協議会

## 『T子の日記』

福島県教育庁南会津教育事務所長

西牧 泰彦

私が勤務した2校目の学校は、当時、全校児童900名で、1学年が4～5学級の大規模校だった。男性教員が全教職員の2/3近くを占め、年齢も20代から40代前半の教員ばかりで、活気がある伝統校だった。

初任校は、中山間僻地の1学年1学級の小規模校だった。そのため、受け持つ校務分掌の数も多く、何でも自分でやらなければならなかった。お陰で、教員としての基本的な仕事を覚え、様々な経験により、たくさんのことを学ぶことができ、教員の仕事の楽しさを知り、子供の成長に関われる充実感を味わい、大規模校に赴任した。

「授業がつまらない。」5月下旬、T子の日記の一文が目飛び込んだ。5年生に進級し、クラス替えをした学級を担当するというので、子供の人間関係や子供との信頼関係を大切にしようと、学級づくりに力を入れようと意識して取り組んでいたが、子供たちとの関係が今ひとつしっくりしていないのを感じていた矢先だった。T子の目は、担任の授業力のなさを見抜き、指摘してきたのである。それもそのはず、同学年あるいは前学年までの先生方は、課題解

決型の授業を基本とし、「分かった。できた。もっとやってみよう」という子供の意欲を高める授業を展開していたのである。T子は前学年までのそういう授業を求めている。当然である。

私自身の授業改善は待たなしとなった。研修主任の先生に1単元を通して師範授業をしてもらい、自分は授業を参観し、メモを取った。次の単元では自分が授業を行い、放課後、指導を受けた。全員のノートを持ち帰り、朱書きでコメントを入れ、一人一人の学びの変容を座席表に書き、次の授業展開を考えた。子供主体の授業にはなかなか変わらなかったが、課題解決型の授業づくりを学ぶ出発点となった。

「目の前の子供にとってふさわしい教師になっているか。」「子供は教師を選べない。選べない出会いを、選んだ以上の出会いにする。」この学校で学び、今も大事にしている言葉である。『学び続ける教師こそが教える場に立てる』というのを教えてくれた子供たち、先生方に心から感謝している。

## 『母校に赴任して』

南会津郡小中学校長協議会副会長

我妻 雄比古

校舎から望む那須連峰の山々、早朝から元気に鳴いているキジやウグイスのさえずり等、下郷町は、大川の溪谷美といで湯の里にはぐくまれた雄大な自然をもつ私の故郷です。教職35年目の今年、4月より母校に赴任しました。

私は、下郷中学校を昭和53年度に卒業した第5回目の卒業生になります。当時を思い起こすと、同学年が4クラスで生徒数が179名でした。全校生徒数は500名を超えていました。男子生徒は、坊主頭に学生帽をかぶり、指定の下げカバンを肩にかけて登校していました。

時代はさかのぼりますが、会津藩五代藩主松平容頌の時「教育は百年の計にして藩の興隆は人材の育成にあり」とした家老田中玄宰の進言によって、藩校日新館が作られました。その頃より、学びこそが何をしておいても取り組むべき施策であり、人材育成が会津の芯と考えていたようです。

本町では、平成17年度より児童生徒の学力向上、学習習慣・生活習慣の確立を目的として「四つ葉のクローバー

プラン」が組織され、町内3小学校と本校を「希望」「情熱」「愛情」「幸福」をもたらす四つ葉に見立て、町の教育目標である「新しい時代を創る人材の育成」に取り組んでいます。

時は流れ、東日本大震災と福島原発事故の災禍を経て、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、そして人工知能の進化や科学技術の進歩により仕事や生活が大きく変わろうとしています。

時代や環境が変わろうとも、教育が「人材育成」であることには変わりありません。社会のニーズに応じて活躍できる人材を育てるのが学校の使命であるように思います。学校は、「ある」ものではなく激変する社会のニーズを先取りしながら「つくる」ものでなければならないと考えます。

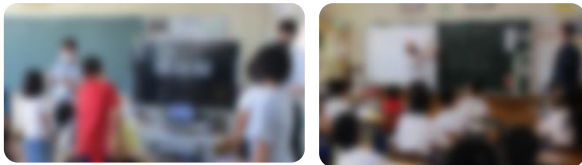
家庭・学校・地域が四つ葉のクローバーを土台に連携・協力し、新たな下郷中学校の伝統をつくっていききたいと思えます。

南会津夢教育2021
～ 南会津の風土を踏まえ 一人一人が夢をかなえられる教育を目指して ～

『南会津』がつむぐ南会津ならではの学校教育！

自ら学ぶ子供の育成

<小学校外国語教育推進リーダーから学ぶ>
南会津域内では、4名の小学校外国語教育推進リーダーの先生が、各校の実態に応じて外国語活動・外国語の授業を推進しています。
小学校新学習指導要領が完全実施されて2年目となり、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが求められています。
各校で外国語教育を推進するために、推進リーダーの先生の授業を積極的に参観したり、校内研修で外国語教育に対する理解を深めたりしながら、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、日々の研鑽を積んでいただければと思います。



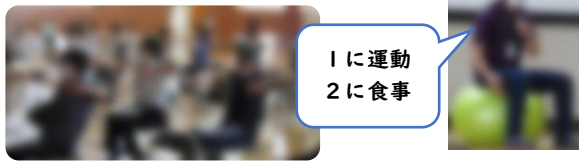
<外国語リーダーの実践より>

特に、館岩小・館岩中学校では、小中英語パートナーシップ事業の指定を受け、児童生徒の外部試験の導入と授業公開(11月)が行われます。また、今年度から英語教員ネクストステージ事業も始まりました。2つの事業は3年間の取組となります。児童生徒と指導者の英語力向上を図るため、頑張っていきましょう。

からだを大切にすることの育成

<健康課題の解決に向けて>
食習慣の乱れや肥満等の健康課題の解決を図るため、県では「健康教育(食習慣、肥満等)に係る専門家派遣事業」を実施しています。1学期にこの事業を活用した学校がありましたのでご紹介します。

- 実施校：南会津町立田島小学校
テーマ：小児の健康保持増進のために
対象者：教職員・保護者(家庭教育学級)
講師：ひろさか内科クリニック医師
内容：
○ 食生活の改善と運動習慣の定着の必要性についての講話
○ 運動習慣の改善として「足を使うこと」「短時間でやること」「ほんのり体温を上げること」をポイントとした具体的な運動方法



南会津は肥満出現率の割合が依然高い傾向にあります。専門家の講話等を直接聞くことで、児童生徒や保護者の意識を高めることにもつながりますね。次年度、この事業の活用についてぜひご検討ください！

こころ豊かな子供の育成

<SSRの取組>

スペシャルサポートルーム「SSR」とは、不登校・不登校傾向児童生徒の居場所づくり、自己実現及び児童生徒が抱える課題並びに多様なニーズへの支援を目的とした適応指導教室です。魅力的な環境をつくるため専任の教員を配置し、きめ細かな対応により、児童生徒の将来の社会的自立を目指しています。南会津域内では、本年度中学校を指定校とし、現在取り組んでいます。今までの指定校の取組について紹介します。

令和元年度 中学校

○ 【校外での居場所づくり】

出身小学校の近くの公共施設に学習スペースを設置し、専任教員が出向き、指導を行った。

令和2年度 小学校

○ 【校内での居場所づくり】

「みんなのフリースペース」を設置し、「落書きスペース」など気軽に集まれる場所を作った。



気軽に集まれる居場所づくり

どちらの取組も、不登校児童生徒が復帰するなど、成果が見られました。

この「SSR」の考え方は、実践校のみが行うのではなく、どの学校でも大切にしたい考えです。柔軟な発想で、多様なニーズに応える学校改善のマネジメントが重要となります。ぜひ自校化して取り組んでみてください。

特別支援教育の充実

<自立活動の指導は、子供の立場で考える>



特別支援学級や通級指導教室では、特別な教育課程が生まれ、自立活動が行われています。自立活動は、各教科のように「内容」をすべて取り扱うものではありません。一人一人の異なる日常生活や学習場面でのつまずきや困難さなどの実態を把握し、その子に応じて計画を立て、自立と社会参加を目指していくものです。

その実態把握をする上で効果的な方法の研修を6月9日(水)「南会津郡特別支援教育研究会」において行いました。付箋を用いてその子につまずきや困難さを整理する方法です。複数の教師で行えば一人では見えなかったその子の立場や行動の背景が見え、よりその子に応じた指導内容や具体的な支援策が生まれてきます。

このような機会(ケース会議)を設けることは担任や担当者を学校全体でサポートする雰囲気づくりにつながります。子供の理解を学校全体で共有し、組織での支援や指導となっていきます。今後、事務所として、効果的なケース会議の実施、それに向けた研修のサポートをしていきますので、ご相談ください。



南郷小でのケース会議の様子

学校・家庭・地域が一体となって取り組む「人づくり」と「地域づくり」

東日本大震災と原発事故から10年を経て、復興状況の地域差や復興意識のズレ、震災を知らない世代の増加といった新たな課題が表出しています。阪神淡路大震災(1995年)で被災した地域では、復興を担うたくましい「人づくり」協働体制を構築する「地域づくり」が進められました。ここ福島でも「人づくり」「地域づくり」の取組が重要となっています。

これを受け、南会津では8月5日「読書活動支援者育成事業南会津地区研修会」において、東日本大震災の被災地相馬市から”震災語り部”さんを招き、講話をいただきます。自身の経験から語られる話は、臨場感があり、心を打つものになると思います。『自分の命は自分で守る』と題した講話は、震災のみならず、あらゆる災害への備えとなるものであり、安全・安心な町づくり・地域づくりのヒントとなることでしょう。

また、福島テレビアナウンサー菅家ひかる氏を迎えての研修も行います。話す上で重要な声の出し方などの演習を入れた内容となっており、読書活動を行う上でのスキルアップにつながるものと考えます。身に付けた読書活動のスキルをもとに子供たちに向かい、福島の未来を担う「人づくり」につなげてください。



【地域家庭教育推進  
南会津ブロック会議 R3.6】

南会津地方広域市町村圏組合教育委員会の紹介

南会津地方広域市町村圏組合は、南会津郡内の4町村で組織される特別地方公共団体で、各町村が行う事務の一部を共同処理するために、昭和48年に設立(一部事務組合)されました。以下のように組合が教育委員会を設置、活動している事例は少なく、本組合教育委員会は福島県内では唯一の、全国的にも珍しい一部事務組合による教育委員会です。

本組合では、設立当初から視聴覚ライブラリーを設置し、視聴覚教材・機材の貸し出しのほか、映写機の操作講習会、夏休みに郡内を巡回しての子供映画会などの事業を行っていました。その後、テレビやインターネットの普及、メディアの多様化などの理由により昭和57年をピークに年々貸出件数は減少したことから、平成20年より事業規模を縮小し現在に至ります。現在は16ミリフィルム70本、DVDソフト98本等の視聴覚教材、液晶プロジェクターやスクリーンの機材等を所有し、貸出業務を継続しています。

他方、昭和63年から圏域内の外国語教育の充実と地域の国際交流に寄与するため、JETプログラムを利用した語学指導等を行う

外国青年招致事業を開始しました。昭和63年7月に2名を招致して以来、現在までの32年間で、世界5カ国から合計84人の外国青年を招致してきました。令和3年6月現在、7名の外国青年を任用し、南会津郡内の小中学校のほか、幼稚園などにおいて活躍していただいています。



ALT との楽しい授業!



南会津地方広域市町村圏組合教育委員会

職名	氏名	備考
教育長	星 英雄	南会津町教育委員会教育長
委員	湯田 嘉朗	下郷町教育委員会教育長
	渡部 公三	只見町教育委員会教育長
	平野 好道	檜枝岐村教育委員会教育長

現在所有している主な視聴覚教材のタイトル

【16ミリフィルム】

- ・会津田島祇園祭のおとうや行事
- ・奥会津の木地師
- ・斜坑に挑むTBM

【DVDソフト】

- ・プロジェクトX第I・II期
- ・名作アニメシリーズ
- ・トム・ソーヤの冒険
- ・もしもの時の応急処置マニュアル



現在、新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの渡航に制限があるため、檜枝岐村への外国青年の配置が叶っていません。一日も早く、新型コロナウイルス感染症が収束し、国際交流ができることを願っています。

「初めての南会津」  
下郷町立榎原小学校  
校長 矢吹 隆浩

新任校長として下郷町立榎原小学校と決まった時に、不安な気持ちと一緒に、榎原小学校の子供たちや先生方、そして地域の方々のために一生懸命に頑張ろうという気持ちでいっぱいになりました。

私は、平成3年度に採用され、初任校は、安達町立油井小学校（現在は二本松市立油井小学校）でした。そして、時は流れ令和3年度がスタートして初めて経験したことがいくつかありましたのでご紹介します。

- ・初めての会津（今までの勤務校はすべて中通り）
  - ・初めての単身赴任
  - ・初めての個室（校長室での校務）
  - ・初めての県知事との対面（4月末に榎原小に来校）
  - ・初めての野生のサルとの遭遇（榎原小の敷地内にて）
  - ・初めての草刈り機の操作（敷地内の環境整備）など…
- わずか数ヶ月の間に、初めて経験したことがたくさんありました。そして、南会津の方々に対して、人のやさしさや温かさに触れることができ、毎日感動の連続です。今からもう「三泣き」しそうな私です。これからも南会津の子供たちの明るい未来のために頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

「覚悟をもって」  
南会津町立荒海中学校  
教頭 鈴木 健

静岡県出身で、会津での勤務経験のない私は、この春、南会津町に赴任が決まり、期待よりも不安が少し勝っていました。しかし、赴任してみると前任校である小野町立小野中学校での勤務経験がある先生が4名もいる職場で、すぐに溶け込めそうだという安心感を持って迎えた4月1日でした。温かい雰囲気を作っていた荒海中職員の皆様には感謝しかありません。また、学校全体の雰囲気も温かく、保護者や地域の方々にも感謝しております。

このよき雰囲気の中、本年度の荒海中の教育活動を軌道に乗せるために、校長先生をはじめ同僚の協力を得て、我武者羅に取り組んだ3ヶ月でした。この3ヶ月の教頭としての職務を経て、赴任前にあった不安は、自分自身に確固たる自信がないのではなく、「教頭としての『覚悟』」が足りなかったのだと悟りました。

共に切磋琢磨した、かつての同僚からの応援や励ましのためにも、そして荒海中のため、南会津のために、教頭として少しでも貢献できるように、覚悟を持ってがんばっていきたいと思います。

「大好きな会津の地で」  
只見町立只見小学校  
教諭 松本 ひかる

4月に着任してから、4ヶ月が経とうとしています。元気いっぱい素直な子供たちと、私を手厚く指導してくださる先生方、地域の食材が沢山入ったおいしい給食等に支えられ、充実した毎日を過ごしています。

私は進学を機に、生まれ育った会津を離れました。その時に改めて、会津の人の温かさや子供たちの人懐っこさ、そして誇り高い歴史と伝統が私という人間を育ててくれたということに気づき、会津で教員になりたいと強く思うようになりました。

その時期に檜枝岐歌舞伎に興味をもち、卒業研究では檜枝岐歌舞伎を伝承する地域と学校の連携について研究しました。檜枝岐歌舞伎の座長さんと檜枝岐中学校の生徒や先生方への調査から、子供を思う地域の温かさや地域を理解しようとする教員の熱意、そして地域と学校に見守られながら子供が素直に育つ奥会津の教育に惹かれ、奥会津採用枠を志願しました。その夢がかない、憧れていた「教員」としての人生をこの只見の地でスタートできたことを幸せに感じています。

自分の夢を追いかけてながらも、郷土を誇りに思う気持ちを忘れずに、将来も会津と関わりたいと思う子供たちを育てていきたいです。

「教員生活を始めて」  
檜枝岐村立檜枝岐小学校  
養護教諭 宍戸 由佳

教員生活が始まり、3ヶ月が経ちました。檜枝岐村の方々の温かさや湧き出る温泉に支えられながら生活しています。

4月に異国のように感じた生活にも徐々に慣れてきました。温泉が当たり前のように出ること、4月に吹雪の日があったこと、カメムシがたくさんいること。ここでの生活は、私にとって驚きがたくさんあって新鮮です。

檜枝岐村には、小学校の修学旅行で訪れているため、何かの縁を感じています。その時は雨で燧ヶ岳に登頂できませんでした。この土地にせつかく来たからには、いつか登りたいです。

地元の福島市から決して近いとは言えない檜枝岐村。地元を離れる際、父に「会津の三泣き」の話を聞きました。「会津に行きたくない泣き、優しさや人情に触れて泣き、離れるのがつらい泣く。」念願であった福島県の教員ですどこに行くことになっても泣きませんが、今は地域の温かさにジーンときています。

たくさん雪が降る冬が心配ですが、一年を通して自然豊かな檜枝岐ライフを子供たちと一緒に楽しみ、養護教諭としてたくましく成長したいと思います。

## 編集後記

梅雨が明け、南会津にも暑い夏がやってきました。今夏はオリンピック選手の熱戦と感動を子供たちと分かち合いたいものですね。本誌においても、南会津に初めて赴任された先生方の熱い思いがひしひしと伝わってきます。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様に心より御礼申し上げます。